

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月27日
【事業年度】	第52期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	システムズ・デザイン株式会社
【英訳名】	SYSTEMS DESIGN CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 隈元 裕
【本店の所在の場所】	東京都杉並区和泉一丁目22番19号
【電話番号】	03 - 5300 - 7800
【事務連絡者氏名】	取締役 岡本 芳明
【最寄りの連絡場所】	東京都杉並区和泉一丁目22番19号
【電話番号】	03 - 5300 - 7800
【事務連絡者氏名】	取締役 岡本 芳明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	6,539,325	6,557,014	7,109,818	7,783,613	8,295,163
経常利益 (千円)	372,670	219,297	210,484	153,894	239,441
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	256,310	114,715	102,518	43,968	134,935
包括利益 (千円)	259,880	122,801	58,102	69,047	158,610
純資産額 (千円)	3,669,729	3,787,181	3,798,722	3,776,498	3,872,169
総資産額 (千円)	5,262,625	5,198,404	5,298,541	5,725,045	5,861,481
1株当たり純資産額 (円)	1,023.55	1,057.39	1,060.61	1,080.04	1,107.40
1株当たり当期純利益金額 (円)	70.58	32.03	28.62	12.53	38.59
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.7	72.9	71.7	66.0	66.1
自己資本利益率 (%)	7.2	3.1	2.7	1.2	3.5
株価収益率 (倍)	7.8	18.3	18.1	48.1	17.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	406,780	19,265	303,082	187,271	222,023
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	36,407	30,729	179,139	528,668	71,793
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	119,335	57,484	184,375	119,578	164,173
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,892,128	2,823,180	2,762,747	2,540,928	2,526,985
従業員数 (人)	419	445	498	566	560
(外、平均臨時雇用者数)	(575)	(573)	(647)	(800)	(771)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (千円)	5,938,305	5,843,601	5,859,827	5,695,137	5,864,878
経常利益 (千円)	355,924	166,796	172,446	84,461	117,323
当期純利益 (千円)	207,068	95,030	145,954	28,347	82,966
資本金 (千円)	333,906	333,906	333,906	333,906	333,906
発行済株式総数 (千株)	3,940	3,940	3,940	3,940	3,940
純資産額 (千円)	3,592,131	3,690,152	3,781,971	3,722,216	3,744,984
総資産額 (千円)	5,012,774	4,883,398	4,913,398	5,100,253	5,144,516
1株当たり純資産額 (円)	1,002.93	1,030.30	1,055.93	1,064.51	1,071.02
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	15.00 (-)	13.00 (-)	13.00 (-)	18.00 (-)	13.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	57.02	26.53	40.75	8.08	23.73
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.7	75.6	77.0	73.0	72.8
自己資本利益率 (%)	5.8	2.6	3.9	0.8	2.2
株価収益率 (倍)	9.6	22.0	12.7	74.6	28.2
配当性向 (%)	26.3	49.0	31.9	222.8	54.8
従業員数 (人) (外、平均臨時雇用者数)	344 (505)	363 (497)	375 (631)	376 (592)	368 (553)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第48期の1株当たり配当額には、特別配当2円を含んでおります。

4. 第51期の1株当たり配当額には、記念配当5円を含んでおります。

2【沿革】

年月	事項
昭和42年 3月	情報処理業務を目的として、東京都荒川区町屋一丁目8番15号に資本金100万円をもってシステムズ・デザイン株式会社を設立、データソリューション業務を開始
昭和42年 8月	業務の拡大に伴い、本社を東京都港区赤坂三丁目21番15号に移転
昭和45年 2月	本社を東京都港区麻布十番一丁目5番6号に移転、大型汎用コンピュータ（FACOM 230-25）を導入しシステムオペレーション業務及びシステム開発業務に進出
昭和47年 8月	データソリューションサービス専門会社として、東京都渋谷区に千代田電子計算機を設立
昭和48年 9月	システムオペレーション業務の拡大に伴い、大阪市西区靱本町に大阪営業所を開設
昭和52年 3月	業務の拡大に伴い大阪営業所を大阪市西区本町に移転
昭和54年12月	業務の拡大に伴い、本社を東京都新宿区西新宿三丁目9番2号平和情報センタービルに移転
昭和56年 7月	業務の拡大に伴い大阪営業所を大阪市東区淡路町に移転
昭和61年 7月	業務の拡大に伴い、本社を東京都渋谷区西原一丁目29番2号に移転するとともに、IBM 4341を導入、オンラインサービスを開始
昭和62年 4月	大阪営業所にFACOM M740/10を設置、システムオペレーション業務を拡充強化
平成 6年 1月	事業所の統合・合理化を図るため、本社を東京都渋谷区笹塚一丁目48番3号住友不動産笹塚太陽ビルに移転
平成 8年 4月	業務の拡大に伴い、大阪営業所を大阪市北区天満橋OAPビル（現所在地）に移転
平成12年10月	千代田電子計算機及び山梨千代田計算機を吸収合併、合併を機に事業本部制の導入、大阪営業所の支社への昇格、山梨営業所の設置等の機構改革を実施
平成13年 4月	CTI業務アウトバウンドサービス（情報発信業務）の拠点を山梨に開設
平成15年11月	アッセンブリー事業の業務の拡大に伴い、山梨竜王センターに新社屋を増設
平成16年 6月	プライバシーマーク取得
平成17年 3月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年 2月	業務の拡大に伴い、本社を東京都杉並区和泉朝日生命代田橋ビル（現所在地）に移転
平成18年 4月	株式会社アイデスの株式を取得して子会社化（現連結子会社）
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場
平成24年 5月	渋谷エントリーセンターを、東京都八王子市八王子東町センタービル（現所在地）に移転
平成25年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
平成26年 6月	業務の拡大に伴い、横浜事業所を神奈川県横浜市に開設（現横浜事業所分室）
平成26年 8月	業務効率化を図るため、和光分室（埼玉県和光市）を東京都板橋区成増トーセイ三井生命ビル（現所在地）へ移転
平成27年 6月	業務の拡大に伴い、横浜事業所を神奈川県横浜市に開設
平成27年 7月	シェアードシステム株式会社の株式を取得して子会社化（現連結子会社）
平成27年12月	業務効率化を図るため、天満橋事業所を大阪府大阪市中央区に開設
平成28年 5月	株式会社アイカムの株式を取得して子会社化（現連結子会社）
平成29年 3月	創立50周年を迎える
平成30年 5月	AIを活用した知識検索サービス「Kleio（クレイオ）ナレッジサーチ」の提供を開始

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（システムズ・デザイン株式会社）、子会社3社により構成されており、事業内容は

- (1) システム開発事業
- (2) アウトソーシング事業

の2事業に大別され、子会社のうち2社はシステム開発事業を行っており、1社はアウトソーシング事業を行っております。

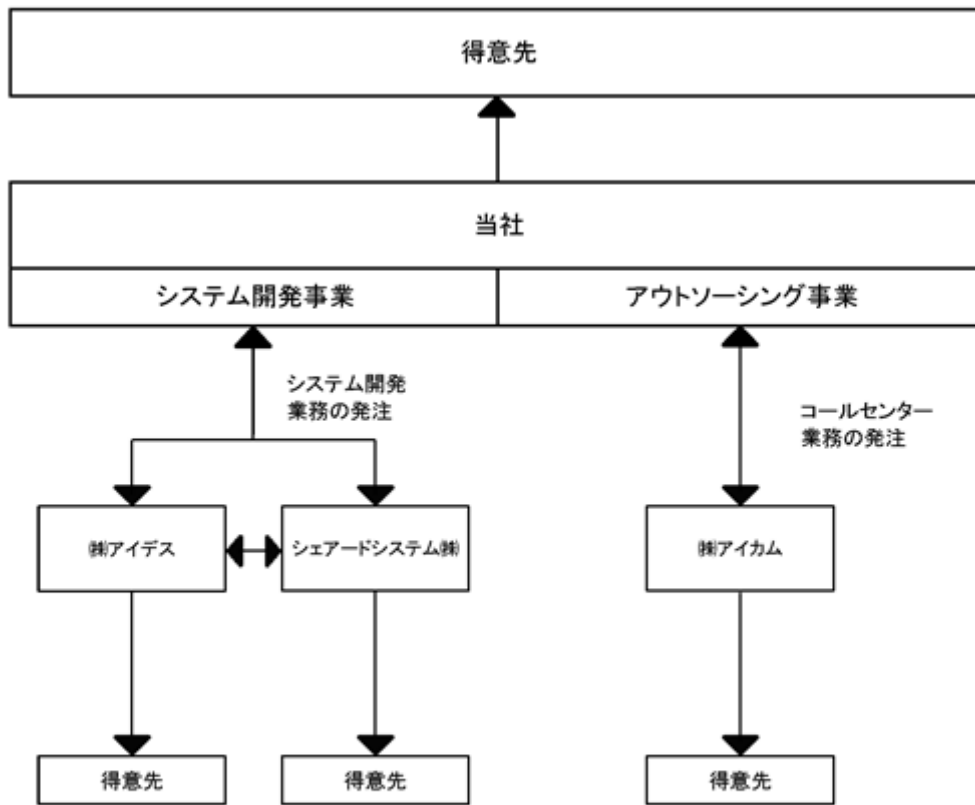
当社グループの事業にかかわる位置付け及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、上記2事業は「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。

また、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

区分	事業の内容
システム開発事業	製造、物流、流通、通信、金融、医療、文教など様々な業種の大手・中堅企業様向けの業務システムを開発しております。
システムインテグレーション	情報システムの調査分析・企画からシステム開発、インフラ構築、保守・メンテナンスまでの一貫したサービスを提供しております。
ソリューション	ソフトウェアを利用したソリューションや、webやネットワーク、さらにハンディターミナルやスマートフォンに対応したミドルウェアパッケージソフトなどを提供しております。
アウトソーシング事業	
データエントリー・サービス	オペレーターによるデータ入力業務のほか、ドキュメントの電子化や、電子データのファイル形式変換を行っています。
ライブラリー・サービス	大学図書館・研究機関図書館などの大規模な文書管理に関しまして、図書データ作成からデータ入力、管理・運用スタッフの派遣まで、トータルなサービスを提供しております。
ビジネス・プロセッシング・サービス	個別システムの企画から、開発・運用までのサポートをはじめ、その前後処理を含めたトータルなアウトソーシングまで幅広いサービスの提供が可能です。
コンタクトセンター	コールセンター・サービスとして、インバウンド・アウトバウンドに関わらず、顧客のご要請にお応えする多彩なサービスを提供しております。
プロダクトサービス	パッケージソフトウェアなどの媒体制作に伴うCD-ROMの大量プレス、梱包資材の調達・印刷から実際の梱包作業までを一貫してサポートします。

[事業系統図]



※㈱アイデス、シェアードシステム㈱、㈱アイカムの3社は連結子会社であります。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 又は被所 有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社アイデス	大阪府大阪市中央区	60	システム 開発	100	システム開発業務の発注。
シェアードシステム株式 会社	東京都豊島区	10	システム 開発	100	システム開発業務の発注。 資金の貸付あり。 役員の兼任2名。
株式会社アイカム	東京都文京区	10	アウト ソーシ ング	100	コールセンター業務の発注。 資金の貸付あり。 役員の兼任3名。

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

- 株式会社アイカムの投資先であったエイチ・エスサポートセンター株式会社は株式の売却により持分法適用の範囲から除外しております。
- 株式会社アイカムについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	1,196,037千円
	(2) 経常利益	89,635千円
	(3) 当期純利益	60,563千円
	(4) 純資産額	102,192千円
	(5) 総資産額	572,737千円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
システム開発事業	378	(25)
アウトソーシング事業	111	(730)
全社(共通)	71	(16)
合計	560	(771)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
 2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
368 (553)	39.6	9.8	5,268,036

セグメントの名称	従業員数(人)	
システム開発事業	265	(15)
アウトソーシング事業	51	(524)
全社(共通)	52	(14)
合計	368	(553)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループ内に労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、創設以来の「カスタマー・ファースト」の経営理念のもと、システム開発事業とアウトソーシング事業を柱とする「総合情報サービス企業」として着実に実績を重ねてまいりました。今後も各事業の発展と維持向上をはかると共に、事業の融合により一層の企業価値を高める事で、顧客に常に高品位なサービスを提供し、パートナーとして圧倒的な信頼を得られるよう、グループ全社で取り組んでまいり所存でございます。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、経営の効率性向上による収益重視の観点から、売上高経常利益率を主たる経営指標としており、8.0%以上を目標としております。また株主重視の観点から株主資本当期純利益率（ROE）についても重要な経営指標と考えております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、「ONEsdc - 新たな礎をつくる - 」を中期ビジョンとし、磐石な事業基盤の確立のため、以下の取り組みを進めてまいります。

- ・先端技術や新たな分野へのチャレンジに対する積極投資
- ・事業間、拠点間、グループ会社、ビジネスパートナーとの連携強化
- ・継続的、安定的な収益基盤の確立

(4) 会社の対処すべき課題

少子高齢化による労働力人口の減少が進む中、更なる技術者の不足が想定されており、特に専門技術を有する高度IT人材の確保が大きな課題となっております。また、当社グループの属する情報サービス分野においては、AI、IoT、ビッグデータ等に代表される技術革新分野への需要が拡大し、新たな成長分野として期待されていることから、技術者の育成が課題ともなっております。

このような事業環境を踏まえ、当社グループでは継続的・安定的な収益基盤の確立を図るとともに、将来のあるべき姿を見据えて、以下の施策に取り組んでまいります。

ソリューションビジネスの確立

SI（システムインテグレーション）とBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）を事業の柱とする当社グループは、顧客企業の業務内容や課題をより深く理解し、最適なソリューションを提供していくことが求められています。

当社グループは、こうしたソリューションを提供するための体制を強化していくとともに、従来の事業や地域に加え、グループ会社やビジネスパートナー各社との相互連携を図ることで、より一層、総合力を活かしたサービスを展開してまいります。各々の組織が持つ強みを相互に活用することで、営業力とサービスの提供力を強化し、顧客企業との取引の拡大・深耕を図ってまいります。

また、近年急速に進展しているAI、IoT、ビッグデータ等の先端技術を活用し、顧客企業のニーズを先取りした新しい事業領域の創出を目指してまいります。

プロフェッショナル人材の育成・確保

当社グループでは、企業成長の源泉は人材にあるとの考えのもと、高度な専門能力を有し、実務遂行能力のあるプロフェッショナル人材の確保に努めております。ソリューションビジネスの確立に向けては、多様化・複雑化する技術要件に対応できる高度な技術力や顧客要件を的確に理解できる業務知識、大規模案件を担えるプロジェクトマネジメント力等の強化を重要課題として位置付け、引き続き人材の育成と採用に注力してまいります。

また、あわせて社員の働き方改革を推進し、労働環境の改善とやりがいの持てる職場風土の醸成によって、社員のリテンションや労働生産性の向上に努めてまいります。

グローバル化とダイバーシティ（多様性）の推進

ビジネスのグローバル化が進む中、情報サービス業界においてもオフショア開発を中心に海外進出が拡大しております。当社グループは、ビジネスパートナーとの連携により、単なるコスト削減だけではなく、将来的な労働力不足を見据えた生産力確保の観点から、ベトナムを拠点としたオフショア開発を推進しております。さらに今後は、海外事業の展開も視野に入れて、グローバル化に対応できる人材の確保にも注力してまいります。

また、一方で、ベトナムをはじめとした海外人材の採用や女性の活躍などを推進し、人種や国籍、性別、障がいの有無等に関わらず、多様な人材が活躍できる職場環境の整備に取り組んでまいります。

業務の標準化、集約化

収益体質の更なる強化に向けて、全体最適の観点による生産性向上、品質向上、マネジメントレベルの向上を見据えた業務の標準化に取り組んでまいります。

また、事業・地域・グループ各社の枠を超えた人材の流動化と最適配置に取り組むことで、業務の集約化を図ってまいります。

2【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成30年6月27日）現在において当社グループが判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) 事業環境等について

当社グループは、市場動向の調査、必要な設備投資や技術者の研修、コスト削減等により他社との差別化を図っており、また不採算案件・低採算案件の排除により利益率の改善を図っておりますが、競合の激化や価格競争の激化、急速な技術革新、顧客ニーズの変化など当社グループを取り巻く事業環境が変化した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 特定顧客への依存度について

当社は、ピー・シー・エー株式会社（東京証券取引所第一部上場）からパッケージソフトウェアの製造・配送及びCTI業務の請負を行っております。また、当社の山梨竜王センターと山梨事業所は、ピー・シー・エー株式会社の土地、建物の一部を賃借しております。

なお、当社グループの総売上高に占めるピー・シー・エー株式会社に対する売上高の割合は、平成28年3月期において14.9%、平成29年3月期において13.5%、平成30年3月期において12.0%と推移しており、ピー・シー・エー株式会社の発注方針等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 情報管理について

当社では、個人情報保護規程等の各種規程の整備と運用、情報セキュリティ方針の策定と実行、社員教育の実施等により、個人情報や顧客の機密情報の取り扱いについて十分留意しており、子会社各社においても同様の施策を実施しております。また、当社は平成16年6月に一般社団法人情報サービス産業協会の審査に合格し、一般財団法人日本情報経済社会推進協会から「プライバシーマーク」の使用許諾を受けております。

当社グループにおいては、現在まで個人情報や顧客の機密情報の流出による問題には十分に配慮しておりますが、今後、不測の事態により、個人情報や顧客の機密情報が外部へ漏洩したり毀損した場合、当社グループの信用失墜による売上の減少や、損害賠償による費用発生等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 優秀な人材の確保について

当社グループでは、システム開発事業においてサービスの品質、開発力の両面から、優秀な技術者の確保が必要なものと認識しております。また、アウトソーシング事業においては、業務のあらゆる場面での対応を指揮するための豊富な経験と知識を持ったマネージメントできる人材の、業務のピーク時に対応したタイムリーな確保が必要であります。

当社グループでは、現時点では流動的な労働市場、当社の人事制度・研修制度により、必要な人材が確保されていると考えておりますが、知名度不足による優秀な人材の募集難は否めない状況であります。今後、労働力市場の逼迫等により当社グループが必要とする優秀な人材や労働力を適時に確保できない場合、又は当社グループの従業員が大量に退職した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) システム開発作業の不具合や遅延について

システム開発事業においてはプロジェクト毎に進捗管理を行っており、納期遅れ等が発生しないように留意しておりますが、不具合の発生等により品質や納期に問題が発生した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 大規模災害等の発生について

大規模な天災や人災等が発生した場合に備え、当社グループは被害を最小限に抑えるための体制整備を図っております。しかしながら、その影響が大きく、一部あるいは全部の業務が停止した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 知的財産権について

当社グループは第三者が持つ知的財産権を侵害しないよう細心の注意を払っております。しかしながら、当社グループの事業に関連する知的財産権が第三者に成立した場合、または認識していない知的財産権が既に存在した場合には、第三者から損害賠償または使用差止等の請求を受ける可能性があります。このような場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) M&Aについて

当社グループは事業拡大を加速させたりその幅を広げるために、M&Aを行う可能性があります。そしてそれを実行する際には事前に十分な分析・検討・評価を行いますが、当初想定した収益性やシナジー効果が得られない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続く中、金融緩和や各種経済政策を背景として、緩やかながら景気回復基調で推移しました。一方、海外では欧米を中心に景気は堅調に推移しているものの、米国の経済政策動向に対する懸念や地政学リスクの高まりなど、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する情報サービス分野においては、企業のIT投資は堅調に推移しております。

このような状況の下、当社グループでは継続案件や新規案件の受注確保、人材育成及び採用活動への投資などに注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末における資産の残高は、5,861,481千円となり、136,436千円の増加となりました。

流動資産においては、146,158千円の増加となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加190,721千円によるものであります。

固定資産においては、9,722千円の減少となりました。これは主に、のれんの減少51,109千円によるものであります。

当連結会計年度末における負債の残高は、1,989,311千円となり、40,764千円の増加となりました。

流動負債においては、116,582千円の増加となりました。これは主に、未払金の増加104,996千円によるものであります。

固定負債においては、75,817千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少91,663千円によるものであります。

b. 経営成績

当連結会計年度における売上高は8,295,163千円（前年同期比6.6%増）となり、営業利益は216,805千円（同54.9%増）、経常利益は239,441千円（同55.6%増）となりました

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しております。また、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っております。業績における前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の区分方法により組み替えて比較しております。変更の詳細は、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」の「1. 報告セグメントの概要(3) 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

システム開発事業につきましては、当連結会計年度における売上高は4,966,310千円（前年同期比1.3%減）、営業利益は140,307千円（前年同期比25.1%減）となりました。

アウトソーシング事業につきましては、当連結会計年度における売上高は3,328,853千円（前年同期比21.0%増）、営業利益は76,497千円（前年同期は 47,477千円の営業損失）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前当期純利益が238,498千円（前年同期比113.9%増）となり、売上債権の増減額 190,721千円、未払金の増減額106,345千円、借入金の返済による支出 91,663千円等により、当連結会計年度末には2,526,985千円となりました。その結果資金残高は、前連結会計年度末に比べ 13,943千円の減少となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は222,023千円（前連結会計年度は187,271千円の資金の獲得）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の238,498千円、売上債権の増減額 190,721千円、未払金の増減額106,345千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は 71,793千円（前連結会計年度は 528,668千円の資金の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出 41,314千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は 164,173千円（前連結会計年度は119,578千円の資金の獲得）となりました。これは主に借入金の返済による支出 91,663千円によるものであります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
システム開発事業	3,880,284	2.5
アウトソーシング事業	2,573,971	22.4
合計	6,454,255	6.1

- (注) 1. 各セグメントの金額については、製造費用によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 当連結会計年度より、報告セグメントの一部の区分を変更しており、「前年同期比(%)」は、変更後のセグメントの区分に組み替えた数値で算出しております。

b. 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
システム開発事業	4,712,176	12.4	517,600	32.9
合計	4,712,176	12.4	517,600	32.9

- (注) 1. システム開発事業以外については、継続業務が大半であり、業務も多岐にわたり、受注高を把握する事が困難なため、システム開発事業についてのみ記載しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
システム開発事業	4,966,310	1.3
アウトソーシング事業	3,328,853	21.0
合計	8,295,163	6.6

- (注) 1. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
ピー・シー・エー(株)	1,047,962	13.5	995,943	12.0

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 当連結会計年度より、報告セグメントの一部の区分を変更しており、「前年同期比(%)」は、変更後のセグメントの区分に組み替えた数値で算出しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績の状況に関する分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて実施しております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループでは第6次中期計画を策定し、高付加価値サービスの提供、プロフェッショナル人材の育成・確保などに取り組んでまいりました。高付加価値サービスの提供として、超高速開発ツールである楽々フレームワーク3を使用したシステム開発を提供しております。この開発ツールは導入している企業も少なく今後も受注拡大を図ってまいります。また、経験を有したプロフェッショナル人材の採用活動に引き続き力を入れております。

当社グループの当連結会計年度の経営成績等は、主要顧客からの受注の回復傾向、従来から取り組んできた営業体制の強化による効果、また、前期に実施した & Aの影響もあり、売上高は8,295,163千円(前年同期比6.6%増)となり、営業利益は216,805千円(同54.9%増)、経常利益は239,441千円(同55.6%増)となりました。

また、当社グループが目標とする経営指標は、売上高経常利益率8%以上であります。当連結会計年度においては、売上高経常利益率2.9%(前年同期2.0%)となりました。早期の経営指標目標の達成を目指してまいります。

なお、セグメントごとの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりです。

システム開発事業につきましては、継続案件や新規案件の受注確保に注力してまいりましたが、高利益案件の受注が達成できませんでした。この結果、当連結会計年度における売上高は4,966,310千円(前年同期比1.3%減)、営業利益は140,307千円(前年同期比25.1%減)となりました。

アウトソーシング事業につきましては、顧客からの受注が順調に推移し、また、前期に実施した & Aの影響もありました。この結果、当連結会計年度における売上高は3,328,853千円(前年同期比21.0%増)、営業利益は76,497千円(前年同期は 47,477千円の営業損失)となりました。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループでは、運転資金及び設備投資資金は基本的に自己資金でまかなっております。

キャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の238,498千円、売上債権の増減額 190,721千円、未払金の増減額106,345千円などにより、営業活動から得られた資金は、222,023千円となりました。また、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合計したフリーキャッシュ・フローはプラスとなっております。

なお、自己資本比率66.1%の指標が示すように、健全な財務体質や営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力によって、当社グループの事業展開に必要な運転資金及び設備投資資金を調達することが可能と考えております。

経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案し実行するよう努めております。当社グループを取り巻く環境を勘案しますと低価格による競争激化や品質管理、付加価値の向上、さらには顧客情報を取り扱う為のマネージメントシステムやセキュリティ対策等、今後の収益環境も益々厳しいものとなることが予想されます。

当社グループとしましては、生産効率の向上を目指し、高品質、高付加価値のサービスを提供する事により、顧客の信頼確保に努めてまいります。

4【経営上の重要な契約等】

- 1．平成16年6月16日当社は、財団法人日本情報処理開発協会（現 一般財団法人日本情報経済社会推進協会）とプライバシーマーク使用契約を締結しております。

相手方の名称	契約内容	有効期限	審査した指定機関
一般財団法人日本情報経済社会推進協会	同協会が設置及び運営するプライバシーマークの通常使用権	平成28年6月16日から 平成30年6月15日	一般社団法人情報サービス産業協会

（注）上記については現在更新申請をしております。なお、有効期限については更新審査終了時までの延長の適用を受けております。

5【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、急速な技術革新や販売競争の激化に対処するため、ソフトウェア、通信設備を中心に設備投資を行っております。

当連結会計年度中において実施した設備投資等は総額41,314千円であります。その主なものは次のとおりであります。

(株)アイカム 建物・工具器具備品 32,638千円 アウトソーシング事業

なお、当連結会計年度において実施した重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1)提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び構 築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (東京都杉並区)	全社(共通) システム開発事業 アウトソーシング 事業	統括業務施設 電子計算機器	10,932	-	4,336	15,269	228 (203)
山梨竜王センター (山梨県甲斐市)	システム開発事業 アウトソーシング 事業	電子計算機器 通信業務機器	35,677	-	351	36,029	23 (189)
社員寮 (東京都国立市)	全社 (共通)	居住施設	27,389	84,089 (141.94)	0	111,479	-
保養所 (新潟県南魚沼市)	全社 (共通)	保養施設	8,623	6,459 (28.35)	-	15,083	-
保養所 (静岡県熱海市)	全社 (共通)	保養施設	9,315	10,271 (42.52)	84	19,671	-

- (注) 1. 帳簿価額のうち、「その他」は機械装置、車両運搬具及び工具器具備品であります。
 2. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
 3. 現在休止中の主要な設備はありません。
 4. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 5. 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

平成30年3月31日現在

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	賃借及びリース料 (千円)
本社	全社(共通)	通信・印刷設備等	24,556
本社	アウトソーシング事業	データ処理設備	15,660
エントリーセンター	アウトソーシング事業	データ処理設備	13,263

(2)国内子会社

国内子会社について主要な設備はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1)重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2)重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,760,000
計	15,760,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,940,000	3,940,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	3,940,000	3,940,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成17年3月8日(注)	300	3,940	63,900	333,906	103,500	293,182

(注) 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 558円

資本組入額 213円

払込金総額 167,400千円

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	4	17	3	9	5	1,271	1,309	-
所有株式数(単元)	-	2,813	1,520	12,537	607	24	21,894	39,395	500
所有株式数の割合 (%)	-	7.1	3.9	31.8	1.5	0.1	55.6	100.0	-

(注) 自己株式443,361株は、「個人その他」に4,433単元及び「単元未満株式の状況」に61株を含めて記載しておりま
す。

(6)【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社K a w a s h i m a	東京都練馬区富士見台4丁目1-4	1,253	35.84
システムズ・デザイン社員持株会	東京都杉並区和泉1丁目22-19	140	4.02
水元 公仁	東京都新宿区	103	2.95
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町1丁目5-5 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	100	2.86
山下 良久	奈良県奈良市	90	2.60
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 日本生命証券管理部内 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	80	2.29
金田 真吾	大阪府吹田市	66	1.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	63	1.80
細谷 徳男	埼玉県川越市	60	1.72
川村 洋子	千葉県柏市	56	1.62
計	-	2,013	57.58

(注) 1. 上記のほか、自己株式が443千株あります。

2. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、すべて信託業務に係る株式数であります。

(7) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 443,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,496,200	34,962	-
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	3,940,000	-	-
総株主の議決権	-	34,962	-

(注) 「単元未満株式」の「普通株式」には当社所有の自己株式61株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
システムズ・デザイン(株)	東京都杉並区和泉一丁目22番19号	443,300	-	443,300	11.25
計	-	443,300	-	443,300	11.25

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	443,361	-	443,361	-

3【配当政策】

当社の利益配分につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり13.00円の普通配当を実施することを決定いたしました。この結果、当期の配当性向は54.8%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、従来に増してコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術、製造開発体制を強化し、さらなる業務の拡大を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年6月26日 定時株主総会決議	45,456	13.00

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	1,377	707	880	720	910
最低(円)	306	470	439	485	560

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	833	905	781	824	790	680
最低(円)	692	723	708	741	610	612

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性7名 女性1名（役員のうち女性の比率12.5%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	-	隈元 裕	昭和42年12月16日生	平成5年4月 日本電気㈱入社 平成12年10月 当社入社 平成17年4月 当社営業本部 部長 平成18年4月 当社経営企画本部 部長 平成19年4月 当社営業本部長 平成19年6月 当社取締役 平成22年4月 当社システム事業部長 平成23年6月 当社常務取締役 平成25年6月 当社代表取締役社長（現任） 平成27年6月 ビー・シー・エー㈱社外取締役 （現任）	(注)3	35
取締役	大阪支社、 子会社担当	坂川 進	昭和30年10月21日生	昭和49年9月 千代田電子計算㈱(現システム ズ・デザイン㈱)入社 平成12年4月 同社企画推進部 部長 平成12年10月 合併により当社プロダクトサービ ス部 部長 平成17年5月 当社アウトソーシング事業本部長 平成17年6月 当社取締役 平成22年4月 当社アッセンブリー事業部長 平成23年6月 当社常務取締役 平成24年4月 当社アウトソーシング事業部長 平成28年5月 ㈱アイカム代表取締役（現任） 平成29年5月 シェアードシステム㈱代表取締役 （現任） 平成29年6月 当社取締役（現任）	(注)3	17
取締役	管理本部担 当	岡本 芳明	昭和30年1月30日生	昭和57年11月 当社入社 平成8年11月 大阪営業所 所長 平成11年4月 取締役 平成12年2月 代表取締役副社長 平成12年10月 合併により常務取締役システム事 業本部長 平成14年10月 大阪支社 支社長 平成16年11月 常務取締役システム事業本部副本 部長 平成17年5月 常務取締役システム事業本部長 平成20年12月 取締役システム事業本部長 平成22年4月 取締役経営企画部長 平成24年4月 取締役管理部長 平成25年6月 取締役（現任）	(注)3	22
取締役	システム事 業部、アウト ソーシング事 業部担当	大倉 志郎	昭和33年8月22日生	昭和59年4月 当社入社 平成11年5月 大阪営業所システム開発部長 平成12年10月 大阪支社 支社長 平成16年11月 大阪支社 支社長 平成25年6月 取締役（現任） 平成27年7月 シェアードシステム㈱代表取締役	(注)3	5
取締役	-	畠山 道子	昭和26年6月13日生	昭和50年4月 (一社)海外コンサルティング企業 協会入職 平成14年1月 ㈱日本開発サービス入社 平成22年10月 ㈱日本開発政策研究所入社 （現職） 平成27年6月 当社社外取締役（現任）	(注)3	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		鈴木 克明	昭和27年2月5日生	昭和47年4月 本田技研工業(株)入社 平成25年6月 当社内部監査室長 平成29年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
監査役 (非常勤)		下島 正	昭和23年3月9日生	平成13年6月 ピー・シー・エー(株)監査役(現任) 平成20年6月 当社監査役(現任)	(注)5	-
監査役 (非常勤)		深澤 公人	昭和32年2月7日生	平成16年6月 ピー・シー・エー(株)監査役(現任) 平成23年6月 当社監査役(現任)	(注)6	4
計						88

- (注) 1. 監査役下島正及び深澤公人は、社外監査役であります。
 2. 取締役畠山道子は、社外取締役であります。
 3. 平成29年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
 4. 平成29年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
 5. 平成28年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
 6. 平成27年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
 7. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
片山 雅也	昭和52年8月2日生	平成18年10月 弁護士登録 AZX総合法律事務所入所 平成20年10月 松岡・浅田法律事務所入所 平成21年1月 弁護士法人アヴァンセリーガルグループ(現弁護士法人ALG&Associates)入所	-

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は株主の負託に応えることが企業経営の基本的使命であり、さらに顧客、従業員等の多くのステークホルダー（利害関係者）に対しても、それぞれの責任を果たしていく必要があると認識しております。そのためには、コーポレート・ガバナンスの強化、充実が不可欠であり、またそれを有効に機能させることが企業価値を増大させるための経営上の重要な課題であると考えております。

このような考えのもと、当社は経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制と、組織内部のチェック体制およびリスク管理体制の強化、株主をはじめ社外に対する正確な情報発信による経営の透明性、更に企業理念の遵守による公正で健全な企業経営を基本とした経営システムを確立し運営してまいります。

また、当社のコーポレート・ガバナンス体制は原則として、当社の取締役がグループ子会社の代表取締役、取締役及び監査役を兼務しており、グループ子会社を含めた事業戦略策定、経営管理ならびに経営資源の最適配分を行っております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ. 会社の機関の基本説明

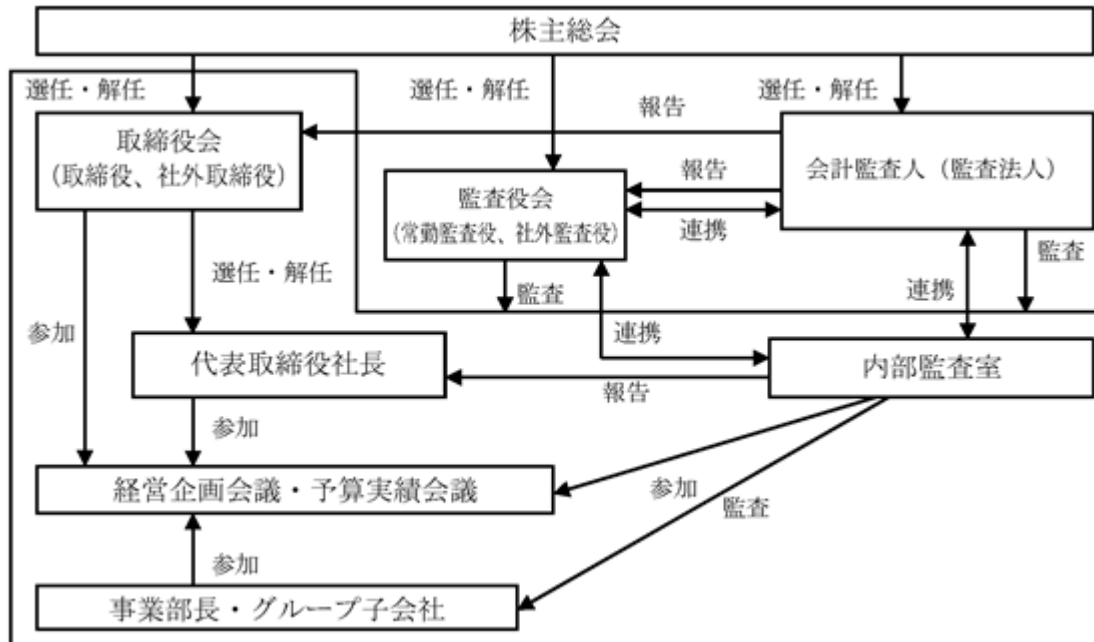
当社の取締役会については、取締役5名で構成され、内1名は社外取締役であります。当社の経営方針等の重要事項に関する意思決定を行うとともに、取締役の経営監視を行い職務の執行を監督しております。

当社の監査役会は、企業統治体制の強化の観点から経理、法務及び人事、労務の各分野に精通した監査役3名を選任しておりますが、内2名は社外監査役であります。監査役会は会計監査人（監査法人）、内部監査室と密接な連携を保ちながら取締役会等の重要な会議に出席し積極的な意見を述べ監査機能の強化を図っております。

その他経営上の意思決定、執行機関としては、中・長期的な視点から利益計画や製品開発、顧客サービス等の企画・立案・検討を目的とする経営企画会議と、各部門の営業実績の報告、進捗状況の点検と調整、問題点の抽出と検討を目的とする予算実績会議を毎月開催し、会社の中・長期的な方向性の検討と情報の共有化を行い業績の向上とリスクの未然防止を図っております。

また、各事業については事業部制を導入しており、経営責任の明確化を図っております。このため各事業部間の業務執行に対する相互牽制が極めて有効に機能を発揮していると考えております。

ロ. コーポレート・ガバナンス体制の模式図



ハ. 内部統制システムの整備の状況

当社は内部統制システムの目的を「業務の実効性、有効性の確保」「財務報告の信頼性の確保」「法規則と内部規程の遵守」「会社資産の保全」であると認識し、内部統制の一層の強化、改善に努力しております。

内部牽制組織

当社は内部牽制強化のため、代表取締役社長直属の独立した部門として内部監査室を設置し、内部牽制組織として機能させております。

内部監査室は、全部門を対象に監査を計画的に実施し、監査結果を社長に報告するとともに、必要に応じて改善事項の指摘・指導を行い、改善状況を報告させ監査の実効性を高めております。また、各部門の内部牽制および内部管理機能の強化を図るとともに、法規則を遵守し業務執行に適切な組織と社内規程が適正に定められ、処理に適正化と内部牽制の有効性が確保されるよう、具体的な助言、勧告を行っております。

組織上の業務部門および管理部門の配置状況

当社は業務の多様性から事業部制を採用しており、それぞれの責任が明確になるよう、責任と権限を委譲しております。

管理部門の配置状況につきましては、経理・財務業務全般を行う経理部と、総務・人事業務を行う総務部とを統括する管理本部を設置しております。各業務部門の売上、仕入、外注等に係わる事務作業は全てエビデンスとともに経理部に報告されており、精査、確認がなされております。また、契約書等に関しては必ず総務部によるチェックを受けることとなっており、内部牽制の実効性が確保される体制を確立しております。

社内規程の整備状況その他

当社では組織権限規程をはじめとした社内業務全般にわたる各種規程を整備することで、各職位が明確な権限と責任をもって業務を遂行しております。また、関係法令の改正、内部統制機能の整備等に応じて、適宜規程の改訂を実施しております。

また、当社グループに属する子会社（3社）につきましては、関係会社管理規程に基き事業に関する承認・報告がなされ、常に各社の経営状況を把握しております。また必要に応じ当社と同様の監査を実施しております。

二. 内部監査及び監査役会監査の状況

内部監査につきましては、前述した「内部監査室」が機能しております。

監査役会との連携については、内部監査室監査と監査役会監査との徒な重複を避け効率的な監査を実施するために、年度始めに両者協議し、それぞれの監査領域を定めた上で合同で監査計画を策定し、これに基づいてそれぞれの監査業務をおこなうこととしております。

また、監査によって検出された事項（指摘・改善等の措置が伴った場合はこれらも含めて）については、相互に提供しあって今後の業務に資するようしております。

その他適宜情報交換や、共同で各業務担当役員から業務の状況ヒアリング等を通じて、監査上の問題意識の共有に努めております。

なお、監査役のうち税理士有資格者及び弁護士有資格者がそれぞれ1名ずつおります。

ホ. 会計監査の状況

会計監査を担当する監査法人としては、有限責任 あずさ監査法人を会計監査人として選任し、監査契約を結んでおり、年度決算をはじめとして適時会計監査を受けております。

また、監査役会と会計監査人とは常に綿密な連携を保ち、情報の共有と十分な意見交換がなされています。

なお、業務を執行した公認会計士の氏名及び監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 野口 昌邦

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 田中 淳一

監査補助者 公認会計士6名 その他5名

社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役及び社外監査役は、取締役会において、内部監査結果及び内部監査計画、監査役監査及び会計監査結果、監査役の監査実施計画、金融商品取引法に基づく内部統制に係る評価結果、会社法に基づく内部統制システムの整備・運用状況の報告を受けております。また、社外監査役は、業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

社外取締役畠山道子氏は、(株)日本開発政策研究所に勤務しております。同社は当社との利害関係はありません。社外監査役についても、当社との利害関係はありません。

社外取締役畠山道子氏の選任については、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外取締役としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する特段の基準又は方針は設定しておりません。

しかし、社外取締役及び社外監査役の選任については、下記の基本的な考え方に基づいて選任しております。

(a) 様々な分野に豊富な知識、経験を有する者から選任し、中立的・客観的な視点から助言を行うことにより、経営の健全性と透明性を確保する。

(b) 選任の本来の目的に適うように、新たな選任においては、その独立性に留意する。

リスク管理体制の整備の状況

当社では、業務に関わる全てのリスクについて適切に管理する体制の整備に取り組んでおります。管理業務担当取締役をリスク管理責任者として、適時全社のしかるべき関係者が連携して問題に対処できる体制を整備しており、法律上の判断を必要とする場合には顧問弁護士から適時アドバイスを受けております。

また、情報管理については、プライバシーマークによる個人情報の保護制度を当社及び子会社1社に適用して運用するとともに体制を整備し、情報セキュリティ対策も適時実施しております。

役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	81,304	73,454	-	-	7,850	4
監査役 (社外監査役を除く。)	6,600	6,600	-	-	-	2
社外役員	6,000	6,000	-	-	-	3

(注) 上記の金額は、使用人兼務取締役の使用人給与相当額(賞与含む)は含んでおりません。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
該当事項はありません。

ロ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計 上額の合計額	貸借対照表計 上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	44,928	48,929	1,303	-	20,621

会社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みの最近1年間における実施状況

年度計画に基づき、各部門に対する内部監査を実施しており、内部牽制の有効性が確保されるように監査、指導を行っております。

また、個人情報保護法関係の規程の見直し改定を行い全従業員に周知徹底を図りました。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨、定款に定めております。これは、自己の株式の取得を取締役会の権限とすることにより、将来の機動的な資本政策の実施に備えるものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任について、法令が規定する額を限度とする責任限定契約を締結できる旨を定款に定めております。

これらは、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役目を十分に発揮できるようにするためであります。

会計監査人の責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって、同法第423条第1項に規定する会計監査人（会計監査人であった者を含む。）の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、会計監査人が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

当社は、会社法第427条第1項の規定により、会計監査人との間で、同法第423条第1項に定める会計監査人の責任について損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。これは、会計監査人が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨、定款に定めております。これは、中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	33,800	-	30,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	33,800	-	30,000	-

(注) 当連結会計年度における上記の報酬以外に、前連結会計年度に係る追加報酬が1,000千円あります。

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、規模・特性・監査日数等を勘案した上で定めております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また企業会計基準委員会の行う有価証券報告書セミナー等に参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,540,928	2,526,985
受取手形及び売掛金	1,410,246	1,600,968
商品及び製品	20,488	21,746
仕掛品	² 97,512	71,781
原材料及び貯蔵品	17,981	18,387
繰延税金資産	102,179	81,565
その他	78,343	92,179
貸倒引当金	1,236	1,011
流動資産合計	4,266,444	4,412,603
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	394,574	416,862
減価償却累計額	262,543	272,073
建物及び構築物(純額)	132,031	144,788
土地	107,273	107,273
リース資産	21,140	26,780
減価償却累計額	10,945	14,262
リース資産(純額)	10,195	12,517
その他	243,505	254,739
減価償却累計額	223,232	225,228
その他(純額)	20,272	29,511
有形固定資産合計	269,772	294,090
無形固定資産		
のれん	563,169	512,059
ソフトウェア	7,699	4,178
その他	9,969	9,969
無形固定資産合計	580,837	526,208
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 101,812	107,743
長期貸付金	3,643	2,419
繰延税金資産	213,706	216,907
その他	³ 288,828	³ 301,508
投資その他の資産合計	607,991	628,579
固定資産合計	1,458,601	1,448,878
資産合計	5,725,045	5,861,481

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	23,105	18,502
1年内返済予定の長期借入金	99,996	99,996
リース債務	5,660	6,878
未払金	3 507,594	612,591
未払法人税等	51,513	63,048
賞与引当金	197,490	191,543
受注損失引当金	31,000	-
その他	190,526	230,909
流動負債合計	1,106,887	1,223,470
固定負債		
長期借入金	116,674	25,011
リース債務	16,031	14,635
繰延税金負債	13,348	16,004
役員退職慰労引当金	49,056	57,885
退職給付に係る負債	633,122	642,290
資産除去債務	2,850	2,901
その他	10,575	7,113
固定負債合計	841,659	765,841
負債合計	1,948,546	1,989,311
純資産の部		
株主資本		
資本金	333,906	333,906
資本剰余金	293,182	293,182
利益剰余金	3,325,094	3,397,091
自己株式	197,928	197,928
株主資本合計	3,754,255	3,826,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24,876	33,024
退職給付に係る調整累計額	2,633	12,892
その他の包括利益累計額合計	22,243	45,917
純資産合計	3,776,498	3,872,169
負債純資産合計	5,725,045	5,861,481

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	7,783,613	8,295,163
売上原価	1 6,312,675	6,685,392
売上総利益	1,470,937	1,609,771
販売費及び一般管理費	2 1,330,984	2 1,392,966
営業利益	139,953	216,805
営業外収益		
受取利息	153	116
受取配当金	1,378	3,248
保険事務手数料	602	584
助成金収入	11,292	16,633
持分法による投資利益	809	1,908
その他	1,233	1,244
営業外収益合計	15,469	23,734
営業外費用		
支払利息	1,320	1,097
自己株式取得費用	208	-
営業外費用合計	1,528	1,097
経常利益	153,894	239,441
特別利益		
固定資産売却益	3 324	3 0
投資有価証券売却益	-	1,755
受取保険金	-	165
特別利益合計	324	1,921
特別損失		
固定資産除却損	4 241	4 226
保険解約損	2,371	577
減損損失	5 40,116	5 2,060
特別損失合計	42,729	2,865
税金等調整前当期純利益	111,489	238,498
法人税、住民税及び事業税	80,525	93,146
法人税等調整額	13,005	10,416
法人税等合計	67,520	103,562
当期純利益	43,968	134,935
親会社株主に帰属する当期純利益	43,968	134,935

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	43,968	134,935
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,709	8,148
退職給付に係る調整額	9,369	15,526
その他の包括利益合計	1 25,078	1 23,674
包括利益	69,047	158,610
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	69,047	158,610
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	333,906	293,182	3,327,687	153,218	3,801,558
当期変動額					
剰余金の配当			46,561		46,561
親会社株主に帰属する当期純利益			43,968		43,968
自己株式の取得				44,710	44,710
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	2,592	44,710	47,302
当期末残高	333,906	293,182	3,325,094	197,928	3,754,255

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	9,166	12,002	2,835	3,798,722
当期変動額				
剰余金の配当				46,561
親会社株主に帰属する当期純利益				43,968
自己株式の取得				44,710
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15,709	9,369	25,078	25,078
当期変動額合計	15,709	9,369	25,078	22,223
当期末残高	24,876	2,633	22,243	3,776,498

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	333,906	293,182	3,325,094	197,928	3,754,255
当期変動額					
剰余金の配当			62,939		62,939
親会社株主に帰属する当期純利益			134,935		134,935
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	71,996	-	71,996
当期末残高	333,906	293,182	3,397,091	197,928	3,826,252

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	24,876	2,633	22,243	3,776,498
当期変動額				
剰余金の配当				62,939
親会社株主に帰属する当期純利益				134,935
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,148	15,526	23,674	23,674
当期変動額合計	8,148	15,526	23,674	95,671
当期末残高	33,024	12,892	45,917	3,872,169

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	111,489	238,498
減価償却費	39,122	22,049
のれん償却額	54,217	63,834
減損損失	40,116	2,060
賞与引当金の増減額(は減少)	6,766	5,946
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	6,586	8,828
貸倒引当金の増減額(は減少)	357	224
受注損失引当金の増減額(は減少)	12,141	31,000
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	23,445	31,545
受取利息及び受取配当金	1,531	3,364
支払利息	1,320	1,097
売上債権の増減額(は増加)	58,025	190,721
たな卸資産の増減額(は増加)	5,515	24,066
仕入債務の増減額(は減少)	141	4,603
未払金の増減額(は減少)	58,929	106,345
その他	10,449	31,204
小計	276,327	293,670
利息及び配当金の受取額	1,525	3,364
利息の支払額	1,320	1,097
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	89,262	73,913
営業活動によるキャッシュ・フロー	187,271	222,023
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	13,101	41,314
有形固定資産の売却による収入	324	0
無形固定資産の取得による支出	3,392	2,179
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 515,168	-
事業譲受による支出	-	15,000
その他	2,669	13,301
投資活動によるキャッシュ・フロー	528,668	71,793
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入れによる収入	300,000	-
借入金の返済による支出	83,330	91,663
自己株式の取得による支出	44,918	-
配当金の支払額	46,561	62,939
その他	5,611	9,570
財務活動によるキャッシュ・フロー	119,578	164,173
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	221,819	13,943
現金及び現金同等物の期首残高	2,762,747	2,540,928
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,540,928	1 2,526,985

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

その社名は次のとおりであります。

(株)アイデス

シェアードシステム(株)

(株)アイカム

(2) 非連結子会社

連結の範囲から除外した子会社はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 0社

当連結会計年度において、持分法適用会社であったエイチ・エスサポートセンター(株)は株式の売却により持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております)

時価のないもの……移動平均法による原価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

商品及び製品……総平均法

仕掛品……個別法

原材料……総平均法

貯蔵品……最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 6～60年

その他 4～20年

無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別債権の回収可能性を考慮した、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に対応する金額を計上しております。

受注損失引当金

受注案件の損失に備えるため、当連結会計年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失額を合理的に見積もることが可能なものについて、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

退職給付制度を有する連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の工事

工事完成基準

(6) のれんの償却方法及び償却期間

主として10年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

(連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	6,336千円	-千円

2. 仕掛品及び受注損失引当金の表示

損失の発生が見込まれる受注製作のソフトウェアに係る仕掛品と受注損失引当金は、相殺せずに両建て
 で表示しております。損失の発生が見込まれる受注製作のソフトウェアに係る仕掛品のうち、受注損失引
 当金に対応する額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
仕掛品	32,685千円	-千円

3. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資その他の資産「その他」	2,517千円	2,517千円

担保に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未払金	71千円	-千円

(連結損益計算書関係)

1. 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
31,000千円	- 千円

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
役員報酬	124,848千円	132,752千円
従業員給料手当	403,328	424,434
賞与引当金繰入額	34,672	35,955
退職給付費用	24,729	18,597
役員退職慰労引当金繰入額	6,586	8,828

3. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他	324千円	0千円

4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	164千円	151千円
その他	76	75
合計	241	226

5. 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

用途	場所	種類	減損損失(千円)
事業用資産	東京都八王子市、神奈川県横浜市、他3拠点	建物及び構築物、リース資産、ソフトウェア等	40,116

当社グループは、原則として管理会計上の区分等をもとに、事業別に資産のグルーピングを行っております。

前連結会計年度において、当社のアウトソーシング事業に係る固定資産につき、収益性が低下していることから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(40,116千円)として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物16,070千円、リース資産10,207千円、ソフトウェア6,401千円、その他7,435千円であります。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率の記載は省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

用途	場所	種類	減損損失(千円)
事業用資産	東京都八王子市、代田橋本社	建物及び構築物、ソフトウェア	2,060

当社グループは、原則として管理会計上の区分等をもとに、事業別に資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、当社のアウトソーシング事業に係る固定資産につき、収益性が低下していることから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（2,060千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物1,241千円、ソフトウェア818千円であります。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率の記載は省略しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	23,470千円	12,261千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	23,470	12,261
税効果額	7,760	4,112
その他有価証券評価差額金	15,709	8,148
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	12,124	22,210
組替調整額	1,379	167
税効果調整前	13,504	22,378
税効果額	4,135	6,852
退職給付に係る調整額	9,369	15,526
その他の包括利益合計	25,078	23,674

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,940,000	-	-	3,940,000
合計	3,940,000	-	-	3,940,000
自己株式				
普通株式	358,361	85,000	-	443,361
合計	358,361	85,000	-	443,361

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加85千株は、取締役会決議による自己株式の取得によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月22日 定時株主総会	普通株式	46,561	13.0	平成28年3月31日	平成28年6月23日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	62,939	利益剰余金	18.0	平成29年3月31日	平成29年6月23日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	3,940,000	-	-	3,940,000
合計	3,940,000	-	-	3,940,000
自己株式				
普通株式	443,361	-	-	443,361
合計	443,361	-	-	443,361

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	62,939	18.00	平成29年3月31日	平成29年6月23日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	45,456	利益剰余金	13.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	2,540,928千円	2,526,985千円
現金及び現金同等物	2,540,928	2,526,985

2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

株式の取得により新たに株式会社アイカムを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社アイカム株式の取得価額と株式会社アイカム取得のための支出(純額)との関係は次のとおりです。

流動資産	294,768千円
固定資産	147,924
のれん	386,039
流動負債	176,464
固定負債	272,267
株式の取得価額	380,000
現金及び現金同等物	134,831
支配獲得日からみなし取得日までの間に実行された当該会社に対する貸付金	270,000
差引：取得のための支出	515,168

(リース取引関係)

重要性が乏しいため記載しておりません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は主に流動性の高く投資リスクの少ない金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、運転資金の調達を目的とした銀行借入であり、返済日は当連結会計年度末日後、最長で1年2ヶ月であります。全て変動金利によるものであり、金利の変動リスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権について、各事業部門における営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループの投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,540,928	2,540,928	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,410,246	1,410,246	-
(3) 投資有価証券	95,475	95,475	-
資産計	4,046,651	4,046,651	-
(1) 買掛金	23,105	23,105	-
(2) 未払金	507,594	507,594	-
(3) 長期借入金(1年内返済予定 の長期借入金を含む)	216,670	216,670	-
負債計	747,369	747,369	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,526,985	2,526,985	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,600,968	1,600,968	-
(3) 投資有価証券	107,743	107,743	-
資産計	4,235,697	4,235,697	-
(1) 買掛金	18,502	18,502	-
(2) 未払金	612,591	612,591	-
(3) 長期借入金(1年内返済予定 の長期借入金を含む)	125,007	125,007	-
負債計	756,100	756,100	-

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 買掛金、(2) 未払金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)

変動金利によるため、短期間で市場金利を反映しており、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
関連会社株式	6,336	-

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,540,928	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,410,246	-	-	-
合計	3,951,175	-	-	-

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,526,985	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,600,968	-	-	-
合計	4,127,954	-	-	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	99,996	99,996	16,678	-	-	-
合計	99,996	99,996	16,678	-	-	-

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	99,996	25,011	-	-	-	-
合計	99,996	25,011	-	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	95,177	59,326	35,850
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	95,177	59,326	35,850
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	298	350	51
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	298	350	51
合計		95,475	59,676	35,799

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	107,462	59,332	48,129
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	107,462	59,332	48,129
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	281	350	69
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	281	350	69
合計		107,743	59,682	48,060

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は退職一時金制度及び確定拠出年金制度を採用しており、また複数事業主制度の企業年金基金制度に加入しております。退職給付制度を有する連結子会社は退職一時金制度を採用しております。

当社が加入する複数事業主制度の企業年金基金制度は、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

また、退職給付制度を有する連結子会社は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表((2) に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
退職給付債務の期首残高	449,237千円	465,730千円
勤務費用	44,294	46,743
利息費用	336	349
数理計算上の差異の発生額	12,124	22,210
退職給付の支払額	15,340	25,431
退職給付債務の期末残高	465,730	464,482

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
退職給付債務に係る負債の期首残高	173,944千円	167,392千円
退職給付費用	20,208	17,390
退職給付の支払額	26,760	6,974
退職給付に係る負債の期末残高	167,392	177,808

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
非積立制度の退職給付債務	633,122千円	642,290千円
連結貸借対照表に計上された負債	633,122	642,290
退職給付に係る負債	633,122	642,290
連結貸借対照表に計上された負債	633,122	642,290

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
勤務費用	44,294千円	46,743千円
利息費用	336	349
数理計算上の差異の費用処理額	1,379	167
簡便法で計算した退職給付費用	20,208	17,390
確定給付制度に係る退職給付費用	65,545	63,951

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
数理計算上の差異	13,504千円	22,378千円
合 計	13,504	22,378

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
未認識数理計算上の差異	3,795千円	18,582千円
合 計	3,795	18,582

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
割引率	0.075%	0.075%
予定昇給率	2.135%	2.040%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度12,136千円、当連結会計年度12,156千円であります。

4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の企業年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度28,053千円、当連結会計年度27,796千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成28年 3月31日現在)	当連結会計年度 (平成29年 3月31日現在)
年金資産の額	727,403,010千円	738,049,600千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	706,662,385	722,844,056
差引額	20,740,625	15,205,544

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合

前連結会計年度 0.34% (平成28年 3月分)

当連結会計年度 0.36% (平成29年 3月分)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、剰余金によるものであります。

また、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しません。

なお、上記については連結財務諸表作成日現在において入手可能な直近時点の情報に基づき作成しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	6,437 千円	8,288 千円
未払事業所税	1,939	2,327
繰越欠損金	9,315	-
未払費用	9,730	9,048
受注損失引当金	9,566	-
賞与引当金	61,670	59,564
その他	4,295	2,336
合計	102,955	81,565
繰延税金負債(流動)		
未収事業税	776	-
合計	776	-
繰延税金資産(流動)の純額	102,179	81,565
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	198,826	209,346
役員退職慰労引当金	15,209	18,022
減損損失	12,283	9,160
関係会社株式評価損	14,115	14,115
その他	8,315	5,372
小計	248,750	256,017
評価性引当額	30,752	33,565
合計	217,997	222,452
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	4,291	5,544
合計	4,291	5,544
繰延税金資産(固定)の純額	213,706	216,907
繰延税金資産(固定)		
その他	4,256	4,020
小計	4,256	4,020
評価性引当額	1,372	934
合計	2,883	3,086
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	16,220	19,080
その他	10	10
合計	16,231	19,091
繰延税金負債(固定)の純額	13,348	16,004

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となつた主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.9%	30.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	0.8
住民税均等割	3.9	2.2
評価性引当額の増減	1.2	1.2
連結修正による影響	22.1	8.6
子会社との税率差異	4.0	2.4
法人税額の特別控除	1.5	1.7
その他	1.2	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	60.6	43.4

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

事務所の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における現状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

なお、不動産賃貸借契約に基づく資産除去債務の一部に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間は、入居から20年と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
期首残高	- 千円	2,850千円
新規連結子会社の取得に伴う増加額	2,833	-
時の経過による調整額	16	50
期末残高	2,850	2,901

また、資産除去債務の負債計上に代えて敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法を用いているものについては以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
期首残高	55,448千円	62,657千円
新規賃貸契約に伴う増加額	-	8,275
新規連結子会社の取得に伴う増加額	10,638	-
資産除去債務の履行による減少額	3,430	2,105
期末残高	62,657	68,827

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「システム開発事業」及び「アウトソーシング事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「システム開発事業」は、システムインテグレーション、ソリューションを行っております。

「アウトソーシング事業」は、データソリューション、データ&ライブラリー、システムオペレーション、C T I及びパッケージソフトの製造配送を行っております。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度より、報告セグメントを従来の「情報処理サービス事業」、「システム開発事業」及び「アッセンブリー事業」から、「システム開発事業」及び「アウトソーシング事業」に変更しております。この変更は、これまでの事業の枠を超え相互連携する事で、より一体感を持たせ競争力の強化を図るため、「情報処理サービス事業」セグメントと「アッセンブリー事業」セグメントを集約し、「アウトソーシング事業」セグメントとしております。また、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるため、全社費用の配賦基準を見直し、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っております。

特定のセグメントに分類することができない共有資産についても、配賦基準を見直し、各セグメントの算定方法の変更を行っております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分及び算定方法に基づき作成したものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理基準に基づく金額により記載しております。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			全社	連結 財務諸表 計上額
	システム開発	アウトソーシ ング	合計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	5,033,105	2,750,508	7,783,613	-	7,783,613
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	5,033,105	2,750,508	7,783,613	-	7,783,613
セグメント利益又は損失 ()	187,430	47,477	139,953	-	139,953
セグメント資産	1,913,814	1,332,547	3,246,361	2,478,684	5,725,045
その他の項目					
減価償却費	13,845	25,277	39,122	-	39,122
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	11,117	16,564	27,682	-	27,682

(注)セグメント利益又は損失()の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			全社	連結 財務諸表 計上額
	システム開発	アウトソーシ ング	合計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	4,966,310	3,328,853	8,295,163	-	8,295,163
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,966,310	3,328,853	8,295,163	-	8,295,163
セグメント利益	140,307	76,497	216,805	-	216,805
セグメント資産	1,933,427	1,549,430	3,482,858	2,378,623	5,861,481
その他の項目					
減価償却費	11,191	10,858	22,049	-	22,049
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	6,308	42,514	48,822	-	48,822

(注)セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ピー・シー・エー(株)	1,047,962	システム開発・アウトソーシング

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ピー・シー・エー(株)	995,943	システム開発・アウトソーシング

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	システム開発	アウトソーシング	全社	合計
減損損失	-	40,116	-	40,116

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	システム開発	アウトソーシング	全社	合計
減損損失	-	2,060	-	2,060

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	システム開発	アウトソーシング	全社	合計
当期償却額	25,068	29,149	-	54,217
当期末残高	206,279	356,889	-	563,169

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	システム開発	アウトソーシング	全社	合計
当期償却額	24,971	38,862	-	63,834
当期末残高	181,308	330,751	-	512,059

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
1株当たり純資産額	1,080.04円	1,107.40円
1株当たり当期純利益金額	12.53円	38.59円

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益金額（千円）	43,968	134,935
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額（千円）	43,968	134,935
普通株式の期中平均株式数（千株）	3,509	3,496

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	99,996	99,996	0.66	-
1年以内に返済予定のリース債務	5,660	6,878	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	116,674	25,011	0.66	平成31年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	16,031	14,635	-	平成31年～34年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	238,362	146,520	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)
長期借入金	25,011	-	-	-
リース債務	7,717	3,330	2,978	609

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,711,414	3,709,408	5,676,955	8,295,163
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額()(千円)	55,791	44,488	12,218	238,498
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	60,795	61,798	27,416	134,935
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	17.39	17.67	7.84	38.59

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	17.39	0.29	9.83	46.43

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,069,364	1,989,710
受取手形	6,642	7,428
売掛金	1,042,480	1,219,274
商品及び製品	20,488	21,746
仕掛品	88,140	60,756
原材料及び貯蔵品	17,981	18,387
前払費用	25,419	35,392
関係会社短期貸付金	46,992	47,072
繰延税金資産	82,447	65,528
その他	7,063	12,779
貸倒引当金	314	368
流動資産合計	3,406,704	3,477,708
固定資産		
有形固定資産		
建物	98,648	97,398
構築物	23	19
工具、器具及び備品	7,443	4,772
土地	102,848	102,848
リース資産	0	5,076
その他	0	0
有形固定資産合計	208,964	210,115
無形固定資産		
ソフトウェア	3,439	1,308
のれん	-	13,351
その他	7,071	7,071
無形固定資産合計	10,510	21,731
投資その他の資産		
投資有価証券	44,928	48,929
関係会社株式	816,445	816,445
関係会社長期貸付金	242,822	195,750
差入保証金	86,863	97,226
保険積立金	121,248	111,537
繰延税金資産	153,476	157,942
その他	8,289	7,129
投資その他の資産合計	1,474,074	1,434,961
固定資産合計	1,693,549	1,666,807
資産合計	5,100,253	5,144,516

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,443	16,687
1年内返済予定の長期借入金	99,996	99,996
リース債務	2,112	3,330
未払金	1,279,789	1,414,071
未払費用	29,105	24,769
未払法人税等	38,023	10,741
未払消費税等	36,881	48,577
賞与引当金	172,820	168,287
受注損失引当金	31,000	-
その他	40,440	44,436
流動負債合計	748,612	830,898
固定負債		
長期借入金	116,674	25,011
リース債務	8,096	10,247
退職給付引当金	461,935	483,065
役員退職慰労引当金	42,720	50,310
固定負債合計	629,425	568,633
負債合計	1,378,037	1,399,532
純資産の部		
株主資本		
資本金	333,906	333,906
資本剰余金		
資本準備金	293,182	293,182
資本剰余金合計	293,182	293,182
利益剰余金		
利益準備金	25,743	25,743
その他利益剰余金		
別途積立金	1,916,671	1,916,671
繰越利益剰余金	1,338,305	1,358,332
利益剰余金合計	3,280,719	3,300,746
自己株式	197,928	197,928
株主資本合計	3,709,880	3,729,907
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,335	15,076
評価・換算差額等合計	12,335	15,076
純資産合計	3,722,216	3,744,984
負債純資産合計	5,100,253	5,144,516

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	1 5,695,137	1 5,864,878
売上原価	1 4,705,392	1 4,804,674
売上総利益	989,745	1,060,204
販売費及び一般管理費	2 929,280	2 984,730
営業利益	60,464	75,473
営業外収益		
受取利息	1 1,516	1 1,599
受取配当金	1 19,653	1 39,798
保険事務手数料	602	584
助成金収入	2,822	-
その他	930	966
営業外収益合計	25,525	42,947
営業外費用		
支払利息	1,320	1,097
自己株式取得費用	208	-
営業外費用合計	1,528	1,097
経常利益	84,461	117,323
特別利益		
固定資産売却益	-	0
受取保険金	-	165
特別利益合計	-	166
特別損失		
固定資産除却損	3 220	3 151
保険解約損	2,371	577
減損損失	40,116	2,060
特別損失合計	42,708	2,789
税引前当期純利益	41,753	114,700
法人税、住民税及び事業税	39,491	20,533
法人税等調整額	26,086	11,200
法人税等合計	13,405	31,733
当期純利益	28,347	82,966

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	333,906	293,182	293,182	25,743	1,916,671	1,356,519	3,298,933	153,218	3,772,804
当期変動額									
剰余金の配当						46,561	46,561		46,561
当期純利益						28,347	28,347		28,347
自己株式の取得								44,710	44,710
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	18,213	18,213	44,710	62,923
当期末残高	333,906	293,182	293,182	25,743	1,916,671	1,338,305	3,280,719	197,928	3,709,880

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	9,166	9,166	3,781,971
当期変動額			
剰余金の配当			46,561
当期純利益			28,347
自己株式の取得			44,710
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,168	3,168	3,168
当期変動額合計	3,168	3,168	59,755
当期末残高	12,335	12,335	3,722,216

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	333,906	293,182	293,182	25,743	1,916,671	1,338,305	3,280,719	197,928	3,709,880
当期変動額									
剰余金の配当						62,939	62,939		62,939
当期純利益						82,966	82,966		82,966
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	20,027	20,027	-	20,027
当期末残高	333,906	293,182	293,182	25,743	1,916,671	1,358,332	3,300,746	197,928	3,729,907

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	12,335	12,335	3,722,216
当期変動額			
剰余金の配当			62,939
当期純利益			82,966
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,741	2,741	2,741
当期変動額合計	2,741	2,741	22,768
当期末残高	15,076	15,076	3,744,984

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの.....期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております）

時価のないもの.....移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

商品及び製品.....総平均法

仕掛品.....個別法

原材料.....総平均法

貯蔵品.....最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 6～60年

工具、器具及び備品 4～20年

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別債権の回収可能性を考慮した、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に対応する金額を計上しております。

(3) 受注損失引当金

受注案件の損失に備えるため、当事業年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失金額を合理的に見積もることが可能なものについて、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の工事

工事完成基準

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) のれんの償却方法及び償却期間

3年5ヵ月間の定額法により償却を行っております。

(3) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	4,658千円	6,102千円
短期金銭債務	3,208	3,908

2 保証債務

次の関係会社について、取引先からの仕入契約に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
株式会社アイデス	4,403千円	1,706千円

上記のほか、当事業年度において、子会社であるシェアードシステム株式会社の建物賃貸借契約に係る債務(月額2,673千円)について連帯保証を行っております。

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引高は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	37,917千円	37,946千円
外注加工費	57,947	78,376
その他製造費	605	-
営業取引以外の取引による取引高	19,671	38,063

2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度21%、当事業年度21%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度79%、当事業年度79%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
役員報酬	89,412千円	86,054千円
従業員給料手当	302,121	315,611
賞与引当金繰入額	32,125	33,583
減価償却費	10,732	8,230
退職給付費用	20,400	16,506
役員退職慰労引当金繰入額	5,670	7,590

3. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	164千円	151千円
工具、器具及び備品	-	0
その他	55	0
合計	220	151

(有価証券関係)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額816,445千円、当事業年度の貸借対照表計上額816,445千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	5,024 千円	3,289 千円
未払事業所税	1,939	1,949
未払費用	7,508	7,584
受注損失引当金	9,566	-
賞与引当金	53,332	51,529
その他	5,075	1,175
繰延税金資産(流動)の合計	82,447	65,528
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	141,444	147,914
役員退職慰労引当金	13,080	15,404
減損損失	12,283	9,160
関係会社株式評価損	14,115	14,115
その他	5,467	7,839
小計	186,392	194,435
評価性引当額	28,624	30,948
合計	157,768	163,487
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	4,291	5,544
合計	4,291	5,544
繰延税金資産(固定)の純額	153,476	157,942

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	10.3	8.2
住民税均等割	8.4	3.8
評価性引当額の増減	2.6	2.0
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	0.4
法人税額の特別控除	-	1.1
その他	0.6	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.1	27.7

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位:千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形 固定 資産	建物	98,648	7,197	1,393 (1,241)	7,053	97,398	244,360
	構築物	23	-	-	4	19	455
	工具、器具及び備品	7,443	-	0	2,670	4,772	192,261
	土地	102,848	-	-	-	102,848	-
	リース資産	0	5,640	0	564	5,076	564
	その他	0	-	-	-	0	13,806
	計	208,964	12,837	1,393 (1,241)	10,293	210,115	451,448
無形 固定 資産	ソフトウェア	3,439	819	818 (818)	2,130	1,308	-
	のれん	-	14,036	-	684	13,351	-
	その他	7,071	-	-	-	7,071	-
	計	10,510	14,855	818 (818)	2,814	21,731	-

(注)「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位:千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	314	368	314	368
賞与引当金	172,820	168,287	172,820	168,287
受注損失引当金	31,000	-	31,000	-
役員退職慰労引当金	42,720	7,590	-	50,310

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・売渡手数料	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号みずほ信託銀行株式会社 本店証券代 行部 (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができないやむを得ない事 由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL http://www.sdcj.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第51期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月23日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月23日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第52期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月14日関東財務局長に提出

（第52期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月14日関東財務局長に提出

（第52期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月14日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 6月26日

システムズ・デザイン株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野口 昌邦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中 淳一 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているシステムズ・デザイン株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、システムズ・デザイン株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、システムズ・デザイン株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、システムズ・デザイン株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

* 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年 6月26日

システムズ・デザイン株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野口 昌邦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中 淳一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているシステムズ・デザイン株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第52期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、システムズ・デザイン株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

* 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。